

食品安全委員会の運営について（令和 5 年 4 月～令和 5 年 6 月）（案）

1. 食品安全委員会の開催

4 月：第 895 回・896 回・897 回（3 回）

（1）食品健康影響評価の要請案件（1 品目、2 案件）

新開発食品（1 品目）	・健康茶 血糖値対策 500（4/18）
器具・容器包装（2 案件）	<ul style="list-style-type: none"> ・食品衛生法第 18 条第 1 項の規定に基づき、食品、添加物等の規格基準（昭和 34 年厚生省告示第 370 号）に定める器具及び容器包装の規格を改正することについて（4/18） ・食品衛生法第 52 条第 1 項の規定に基づき、器具又は容器包装を製造する営業の施設の衛生的な管理その他公衆衛生上必要な措置に関する基準を改正することについて（4/18）

（2）食品健康影響評価の結果通知案件（6 品目）

農薬（3 品目）	<ul style="list-style-type: none"> ・ジクロロメゾチアズ（4/11） <u>ADI を 1.2 mg/kg 体重/日と設定し、ARfD は設定する必要がないと判断した。</u> ・1, 4-ジメチルナフタレン（4/25） <u>ADI を 0.10 mg/kg 体重/日と設定し、ARfD は設定する必要がないと判断した。</u> ・ジメスルファゼット（4/25） <u>ADI を 0.0039 mg/kg 体重/日、一般の集団に対する ARfD を 0.41 mg/kg 体重、妊婦又は妊娠している可能性のある女性に対する ARfD を 0.15 mg/kg 体重と設定する。</u>
動物用医薬品・飼料添加物（1 品目）	<ul style="list-style-type: none"> ・エトパベート（4/11） <u>「暫定基準が設定された動物用医薬品及び飼料添加物に係る食品健康影響評価の考え方について」の 3（3）①に該当する成分であると判断され、現行のリスク管理の範囲で使用される限りにおいて、食品健康影響は無視できる程度と考えられる。</u>
遺伝子組換え食品等（2 品目）	<ul style="list-style-type: none"> ・DIDK-0176 株を利用して生産されたホスホリパーゼ（4/11） <u>「遺伝子組換え微生物を利用して製造された添加物の安全性評価基準」に基づき評価した結果、人の健康を損なうおそれはないと判断した。</u> ・ROM 株を利用して生産された α-アミラーゼ（4/11） <u>「遺伝子組換え微生物を利用して製造された添加物の安全性評価基準」に基づき評価した結果、人の健康を損なうおそれはないと判断した。</u>

(3) その他

- ・「テレビ会議又はWeb会議システムを利用した食品安全委員会等への出席について」の廃止及び「食品安全委員会専門調査会等運営規程」等の一部改正について (4/25)

5月：第898回・899回・900回（3回）

(1) 食品健康影響評価の要請案件（7品目）

農薬（4品目）	・イソピラザム（5/30） ・プロシミドン（5/30） ・フロニカミド（5/30） ・ポリオキシシンド亜鉛塩（5/30）
農薬及び動物用医薬品（1品目）	・フェニトロチオン（5/30）
動物用医薬品（1品目）	・マルボフロキサシンを有効成分とする牛及び豚の注射剤（マルボシル2%、同10%）（5/23）
遺伝子組換え食品等（1品目）	・JPAo011株を利用して生産されたホスホリパーゼ（5/30）

(2) 食品健康影響評価の結果通知案件（9品目）

農薬（3品目）	・1-メチルシクロプロペン（5/16） <u>経口ばく露による厳密な意味でのADI及びARfDを求めることはできないと考えた。しかしながら、作物残留試験の結果、1-メチルシクロプロペンの残留量は極微量であり、農薬登録又は申請された使用方法で適切に使用される限りにおいては食品を通じてヒトの健康に影響を与える可能性は極めて低いと考えた。</u> ・クロルフルアズロン（5/16） <u>ADIを0.033 mg/kg体重/日と設定し、ARfDは設定する必要がないと判断した。</u> ・テブフェンピラド（5/16） <u>ADIを0.0082 mg/kg体重/日、ARfDを0.15 mg/kg体重と設定</u>
農薬及び飼料添加物（1品目）	・シンナムアルデヒド（5/30） <u>農薬及び飼料添加物として想定しうる使用方法に基づき通常使用される限りにおいて、食品に残留することにより人の健康を損なうおそれのないことが明らかであると考えられる。</u>
動物用医薬品（3品目）	・マルボフロキサシン（5/16） <u>ADIを0.004 mg/kg体重/日と設定</u>

	<ul style="list-style-type: none"> <p>・マルボフロキサシンを有効成分とする牛の注射剤（フォーシル）（5/16） <u>本製剤が適切に使用される限りにおいては、食品を通じて人の健康に影響を与える可能性は無視できる程度と考えられる。</u> <u>なお、本製剤の使用に当たっては、マルボフロキサシンがフルオロキノロン系抗菌性物質であることから、薬剤耐性に関する食品健康影響評価において、リスクの程度は中等度であると評価されていることに留意する必要がある。</u></p> <p>・マルボフロキサシンを有効成分とする牛及び豚の注射剤（マルボシル2%、同10%）（5/30） <u>適切に使用される限りにおいては、食品を通じて人の健康に影響を与える可能性は無視できる程度と考えられる。</u> <u>ただし、本製剤の使用に当たっては、マルボフロキサシンがフルオロキノロン系抗菌性物質であることから、薬剤耐性菌に関する食品健康影響評価の結果に留意をする必要がある。</u></p>
肥料（1品目）	<ul style="list-style-type: none"> <p>・菌体りん酸肥料（5/16） <u>今回意見を求められた普通肥料の公定規格の設定は、既に使用が認められている汚泥肥料の規格に含有すべき主成分の最小量を追加するとともに、農林水産大臣による事前確認を受けた品質管理計画に基づき、肥料成分や重金属類に関する定期的な分析等の品質管理を導入する規格を新設するものである。また、有害成分に関しては同等の規制を設けることとされている。</u> <u>そのため、菌体りん酸肥料が適切に使用される限りにおいては、本改正により、汚泥肥料と比較して、食品を通じて人の健康に及ぼす影響が変わるものでないと考えられる。</u></p>
薬剤耐性菌（1品目）	<ul style="list-style-type: none"> <p>・マルボフロキサシンを有効成分とする牛及び豚の注射剤（マルボシル2%、同10%）（5/30） <u>評価対象動物用医薬品であるフルオロキノロン系抗菌性物質が、牛及び豚に使用された結果としてハザードが選択され、牛及び豚由来食品を介して人がハザードにばく露され、人用抗菌性物質による治療効果が減弱又は喪失する可能性は否定できず、リスクの程度は中等度であると考えられる。</u> <u>なお、薬剤耐性菌については、現時点では詳細な科学的知見や情報が必ずしも十分とは言えず、また、リスク評価の手法についても国際的にも十分確立されていないと考えられるため、国際機関における検討状況等を含め新たな科学的知見・情報の収集が必要である。</u></p>
遺伝子組換え食品等（1品目）	<ul style="list-style-type: none"> <p>・<i>Geobacillus stearothermophilus</i> TP7株を利用して生産されたプロテアーゼ（5/30）</p>

	「 <u>遺伝子組換え微生物を利用して製造された添加物の安全性評価基準</u> 」に基づき評価した結果、人の健康を損なうおそれはないと判断した。
--	--

(3) その他

- ・食品安全モニターからの随時報告について（令和4年4月～令和5年3月分）（5/23）
- ・令和5年度食品健康影響評価依頼予定物質について（食品中の暫定基準を設定した農薬等）（5/30）
- ・令和5年度食品健康影響評価依頼予定物質について（飼料中の暫定基準を設定した農薬）（5/30）

6月：第901回・902回、903回（3回）

(1) 食品健康影響評価の要請案件（5品目）

添加物（4品目）	・メチルセルロース並びにカルボキシメチルセルロースカルシウム、カルボキシメチルセルロースナトリウム及びデンプングリコール酸ナトリウム（6/6）
飼料添加物（1品目）	・ムラミダーゼ（6/27）

(2) 食品健康影響評価の結果通知案件（2品目、2案件）

添加物（1品目）	・ポリビニルアルコール（6/6） <u>添加物として適切に使用される場合、安全性に懸念がないと考えられ、ADIを特定する必要はない。</u>
飼料添加物（1品目）	・ <i>Komagataella phaffii</i> BSY-0007株を利用して生産されたフィターゼを原体とする飼料添加物（6/6） <u>飼料添加物として適切に使用される限りにおいては、食品を通じて人の健康に影響を与える可能性は無視できる程度と考えられる。</u>
器具・容器包装（2案件）	・食品衛生法第18条第1項の規定に基づき、食品、添加物等の規格基準（昭和34年厚生省告示第370号）に定める器具及び容器包装の規格を改正することについて（6/6） <u>食品安全基本法第11条第1項第2号の「人の健康に及ぼす悪影響の内容及び程度が明らかであるとき」に該当</u> ・食品衛生法第52条第1項の規定に基づき、器具又は容器包装を製造する営業の施設の衛生的な管理その他公衆衛生上必要な措置に関する基準を改正することについて（6/6） <u>食品安全基本法第11条第1項第2号の「人の健康に及ぼす悪影響の内容及び程度が明らかであるとき」に該当</u>

(3) その他

- ・令和4年度食品安全委員会運営状況報告について（6/13）

- ・薬剤耐性（AMR）対策アクションプランに係る食品安全委員会行動計画（2016-2020）の実施状況報告について（6/13）
- ・薬剤耐性（AMR）対策アクションプラン（2023-2027）の決定について（6/13）

2. 専門調査会等の運営（全 27 回）

専門調査会等名	開催回数	調査審議案件
企画等	1 回	・令和 4 年度食品安全委員会運営状況報告書、令和 5 年度自ら評価の案件選定の進め方（6/1）
添加物	2 回	・ポリビニルアルコール、亜塩素酸水（4/19） ・メチルセルロース（6/26）
農薬第一	3 回	・チオベンカルブ、ブタクロール、イソチアニル（4/27） ・イソチアニル（6/8） ・1,3-ジクロロプロペン（6/30）
農薬第二	1 回	・フェニトロチオン（6/28）
農薬第三	1 回	・1-メチルシクロプロペン（4/10）
農薬第四	2 回	・発芽スイートルーピン抽出たんぱく質（4/17） ・イソピラザム、プロシミドン（6/28）
動物用医薬品	3 回	・ケトプロフェン、プロフラニリド（4/21） ・ヒドロコルチゾン（6/16） ・ケトプロフェン（6/16）
器具・容器包装	1 回	・食品用器具及び容器包装のポジティブリストの改正（4/28）
微生物・ウイルス	1 回	・令和 5 年度食品安全委員会運営計画、アニサキスのリスクプロファイル、食品により媒介される微生物等に関する評価（5/25）
遺伝子組換え食品等	2 回	・JPAo012 株を利用して生産された飼料添加物フィターゼ（5/22） ・JPAo011 株を利用して生産されたホスホリパーゼ、Ra α 3114 株を利用して生産されたプロテアーゼ（6/19）
新開発食品	2 回	・座長の選出（5/10） ・健康茶 血糖値対策 500（5/10）
肥料・飼料等	3 回	・ツラスロマイシン及びケトプロフェンを有効成分とする牛の注射剤（ドラクシン KP）、3-ニトロオキシプロパノール（4/26） ・暫定基準成分のうちサルファ薬の取扱方針（6/29） ・3-ニトロオキシプロパノール（6/29）
薬剤耐性菌に関するワーキンググループ	2 回	・薬剤耐性（AMR）対策アクションプランに係る食品安全委員会行動計画 2016-2020 のフォローアップ（5/24） ・ツラスロマイシンを有効成分とする牛の注射剤（ドラクシン KP）（5/24）
評価技術企画ワーキンググループ	2 回	・ベンチマークドーズ法へのベイズ統計学に基づく手法の導入、疫学研究で得られた用量反応データへのベンチマークドーズ法の適用（4/17） ・ベンチマークドーズ法へのベイズ統計学に基づく手法の導入、疫学研究で得られた用量反応データへのベンチマークドーズ法の適用（6/12）

有機フッ素化合物 (PFAS) ワーキンググループ	1回	・有機フッ素化合物 (PFAS) (5/26)
---------------------------	----	-------------------------

3. 意見交換会の開催等

(1) 講師派遣 (全3回、うち委員2回)

開催日	開催地	講演会名	依頼者	対象者
5/18	東京都	ifia HFE JAPAN 2023 衛生対策・品質管理セッション 基調講演 ※山本委員長	株式会社 食品化学新聞社	食品関連事業者等
6/5	東京都	(公社) 日本食品衛生学会 公開シンポジウム ※山本委員長	日本食品衛生学会	一般消費者、 食品関係事業者、 食品衛生関係者
6/12	滋賀県	生物生産学概論 (授業内1コマ)	長浜バイオ大学	学生

(2) 学会講演 (全1回)

開催日	学会名	内容
5/13	日本糖尿病学会 ※脇委員	COVID-19 関連

4. 情報提供

(1) Facebook、ブログ

食品安全委員会の公表事項、食品安全委員会の開催結果、健康に被害を及ぼすおそれのある案件及び国民の関心が高い案件についての機動的な情報提供。

■ 4月：12記事

閲覧数 (Facebook) 38,133 件/月、 (ブログ) 15,735 件/月

投稿日	記事内容
4	令和5年度調査事業の公募(5課題)について(期間：5月8日(月)12:00まで)
7	【食品安全委員会 4/3～7の公表事項】
12	4/11に開催された食品安全委員会の開催結果を報告します。

14	【食品安全委員会 4/10～14の公表事項】
18	肉は洗わない！ 魚は洗う！ 野菜は洗う！
19	4/18に開催された食品安全委員会の開催結果を報告します。 【令和4年度食品安全モニターの意識調査結果を公表しました】
21	カフェインとアルコールの同時摂取に注意！ 【食品安全委員会 4/17～21の公表事項】
25	アニサキス食中毒を防ぐには？ 【キッズボックス4月号公表】
26	4/25に開催された食品安全委員会の開催結果を報告します。
28	暑くなる季節の食中毒予防（その1：黄色ブドウ球菌に注意！）

■ 5月：14記事

閲覧数（Facebook）128,205件/月、（ブログ）5,881件/月

投稿日	記事内容
2	トンカツなど豚肉料理は中心部まで十分に加熱を！
8	「第28回 ifiaJAPAN2023／第21回 HFEJAPAN2023」でブース出展します
12	【食品安全委員会5/8～12の公表事項】
17	5/16に開催された食品安全委員会の開催結果を報告します。 【ifia JAPAN 2023（第28回 国際食品素材／添加物展・会議）・HFE JAPAN 2023（第21回健康／機能性食品素材展・会議）】
18	暑くなる季節の食中毒予防（その2：ウエルシュ菌に注意！）
19	【食品安全委員会5/15～19の公表事項】
23	食べ物に生えるかびはどんなもの？ 【キッズボックス5月号公表】
24	5/23に開催された食品安全委員会の開催結果を報告します。 【6月7日は世界食品安全の日～「委員長のメッセージ動画を公開しました」～】
26	【食品安全委員会5/22～26の公表事項】

30	6月7日は世界食品安全の日【キッズボックス6月号公表】
31	5/30に開催された食品安全委員会の開催結果を報告します。
	【「粉ミルクは無菌とは限りません。飲む直前に70℃以上のお湯で調乳し速やかに消費しましょう〔細菌（クロノバクター・サカザキについて）〕」のQ&Aを公開しました

■ 6月：17記事

閲覧数（Facebook）89,209件/月、（ブログ）6,452件/月

投稿日	記事内容
2	災害時も食中毒への備えを忘れずに！
	今年、食品安全委員会は創立20周年～特設ページを公開～
	【食品安全委員会5/29～6/2の公表事項】
7	6/6に開催された食品安全委員会の開催結果を報告します。
	本日6月7日は世界食品安全の日
8	令和5年度調査事業「アレルギーを含む食品のファクトシート(そば類、えび・かに)の作成に向けた科学的知見の調査」の公告について (期間：7月6日(木)12:00まで)
9	【食品安全委員会6/5～9の公表事項】
13	暑くなる季節の食中毒予防（その3：セレウス菌に注意！）
14	6/13に開催された食品安全委員会の開催結果を報告します。
16	【食品安全委員会6/12～16の公表事項】
21	ヒスタミン食中毒に注意！
23	【食品安全委員会6/19～23の公表事項】
	"Food Safety - The Official Journal of the Food Safety Commission of Japan" Volume 11, Number 2 has just been published
	食品安全委員会の英文電子ジャーナル「Food Safety - The Official Journal of Food Safety Commission」Vol. 11, No. 2を公開しました。

28	6/27に開催された食品安全委員会の開催結果を報告します。
30	【食品安全委員会6/26～30の公表事項】
	【7/24にシンポジウム「コーデックス60周年記念イベント～国際食品安全の今後10年先を見据えて～」を開催します】

(2) Twitter

食中毒の防止法等、一般消費者にとって身近に関心(共感)の高いものや、タイムリーなもの、緊急性の高いものを中心に情報発信。

■ 4月：7記事

閲覧数 1,433,348件/月、フォロワー 2,155人

投稿日	記事内容
12	この春 #自炊デビューした皆さん、 #食中毒予防のため、「#生のお肉は洗わない」でください！ 細菌が飛び散って周りの調理器具や食品についてしまうおそれがあります。
14	この春 #自炊デビューした皆さん、 GWに #海鮮バーベキュー や #潮干狩り に行く皆さん #食中毒予防のため、一尾ものの魚や殻付きの貝を料理する時は、流水でしっかり洗ってください！
18	この春 #自炊デビューした皆さん、 #食中毒予防のため「#肉は洗わない」「#魚は洗う」覚えていただけましたか？ では野菜は・・・？、流水でしっかり洗ってください！ 特に、葉物野菜は葉をはがして一枚ずついねいに洗い、根菜類は土をしっかりと洗い流すのがポイントです。
19	毎年、食品安全モニターの方を対象に行っている意識調査。 令和4年度の結果は、食品の安全性の観点から最も不安に感じる項目は「有害微生物、ウイルス等による食中毒等」でした。 これらの結果を今後の施策や運営の参考にしてまいります。 詳しくはこちら。
21	この春、新しい環境で頑張っている皆さん、 集中タイムにカフェインで眠気を覚まし、歓迎会でお酒を飲む機会が増えた方もいらっしゃるのでは？ カフェインを摂りすぎたり、お酒と同時に摂ったりしないようにしましょう。
25	アニサキス食中毒を防ぐには？(キッズボックス4月号)を公表しました。 #サバ、#サンマ、#アジ、#イカなどの魚介類には、#アニサキスという

	寄生虫がいることがあります。#食中毒を防ぐ3つのポイント、お子さまと いっしょにご確認ください。
28	平年より気温が高くなると予想されているこれからの季節、食中毒予防が欠 かせません。連休おでかけの際も、お弁当等を作るときはしっかり手を洗い、 おにぎりは素手で握らないようにしましょう。

■ 5月：7記事

閲覧数 249,019 件/月、フォロワー 2,205 人

投稿日	記事内容
2	#豚肉を#生や#レアで食べると、#E型肝炎ウイルスなどの食中毒の おそれがあります。 例えば、#トンカツを揚げるとき、中心部分の十分な加熱が不可欠です。 飲食店での外食時も家庭でも注意が必要。 守るべき調理のポイントはこちら
17	#東京ビッグサイトで開催されている #ifiaJAPAN2023 /#HFEJAPAN2023 で # 食品安全委員会 がブース出展中（ブース番号 A220）です。 18日（木）10:30～11:00 は山本茂貴委員長が「微生物の評価指針」について 講演をいたします。お近くに来られた際にはぜひお立ち寄りください。
18	#ウエルシュ菌による #集団食中毒 が発生しました。気温が高くなるこれか らの時期、カレーや煮物など #加熱調理 した食品でも油断できません。作っ たら速やかに食べましょう。すぐに食べないときは小分けにしてすばやく冷 やし、10℃以下または55℃以上で保存しましょう。
23	もうすぐ梅雨、食品に生える #かび に注意が必要です。かび が生えた食品 はかびをとり除いてもかび が作る毒素（かび毒）が残っている可能性があります。またかび毒は加熱してもなくなりません。詳しくは # 食品安全委員会 #キッズボックス 5月号をご覧ください。
24	6月7日は世界食品安全の日。みんなが食品の安全のために果たしている役 割は何かを確認し、そのためにどう行動するべきかを考え共有しましょう。共 通のハッシュタグをつけてご自身の活動をつぶやき、RTしましょう。 #世界食品安全の日 #WorldFoodSafetyDay
30	6月7日は世界食品安全の日。みんなが食品の安全のために何ができるかを 確認して、行動する日です。お子さまといっしょにクイズにチャレンジして、 どんなことに気がつけたらよいかを考えてみませんか？詳しくは# 食品安全 委員会 #キッズボックス6月号をご覧ください。
31	細菌 #クロノバクター・サカザキ、海外では感染した #乳児 の死亡事例あ り。赤ちゃんを感染症から守るため、#粉ミルク は必ず70度以上のお湯で

溶きましよう。粉ミルクを熱いお湯で作る理由、すぐに消費する理由、すぐに消費とはどれくらいかなどについて Q&A を公開しました

■ 6 月：9 記事

閲覧数 479,705 件/月、フォロワー 2,330 人

投稿日	記事内容
2	<p>食品安全委員会は 2023 年 7 月 1 日に創立 20 周年を迎えます。20 周年を記念して開催予定の国際シンポジウムやこれまでの評価を振り返るコラムを紹介する特設サイトを公開しました。これから随時コンテンツを充実して参りますので、ぜひご覧ください。</p>
	<p>大雨による災害が発生した場合は、食品の低温管理やきれいな水の確保が難しいことがあります、食中毒の発生に注意が必要です。万一来てば備えて災害時の食中毒対策を今一度確認しておきましょう。</p>
7	<p>本日 6 月 7 日は世界食品安全の日。今年のテーマは「食品規格がいのちを救う」。皆様の健康を守るため、食品安全委員会は、国内の食品規格の設定を科学的根拠によって支えています。この機会に、食品を安全に食べるために皆様一人一人が果たしている役割を確認し、共有しましょう</p> <p>食品安全委員会 20 周年を記念して、これまで行ってきた食品健康影響評価の中から、松永和紀委員が、主要なテーマを解説する記事の連載が始まりました。初回はトランス脂肪酸。今後、薬剤耐性やカンピロバクターなどを予定しています。ぜひご覧下さい。</p> <p>今日は「世界食品安全の日」。食品安全委員会のメッセージが、食品安全に関する国際規格を作る Codex 委員会のウェブページ（英文）で紹介されました。海外ではどんなことが実施されているのでしょうか？ #WorldFoodSafetyDay</p>
13	<p>#セレウス菌 は #梅雨 の時期に注意が必要な食中毒菌の一つ。熱に強く通常の #加熱調理 で殺菌できません。#食中毒 発生の多い食品はチャーハンや焼きそばなど。大量調理はせず必要な量を作り、早く食べましよう。保存する場合は速やかに冷蔵後へ。</p>
21	<p>給食のサバの塩焼きを食べた園児がヒスタミンによる集団食中毒に。ヒスタミンは、サバ、マグロ、イワシ等が常温で放置されると生成し、加熱しても分解しません。魚は冷蔵または冷凍し、鮮度の低下した魚を食べないようにましよう。 #ヒスタミン #食中毒</p>
22	<p>食品安全委員会 20 周年を振り返る松永委員執筆の連載 Web コラム、第二回は「薬剤耐性（AMR）のリスク評価に挑む」。この世界的な課題に対し、日本の</p>

	取り組みと食品安全委員会の評価がどのように活用されているかについて解説します。
30	7月24日、#食品安全に関する国際基準を策定する#コーデックス委員会の60周年記念シンポジウムを開催。国内外の専門家が国際食品安全の今後10年先を見据えて討論。#食品安全委員会からは松永委員がパネリストで登壇予定。参加希望の方はこちら

(3) YouTube

食品の安全性に関する科学的な知識の普及啓発や、その他食品の安全に関する情報についての動画による情報発信

(4～6月に公開した動画の合計視聴回数 621 回、チャンネル登録者数 1,343 人)

公開月日	記事内容	視聴回数 (公開日～7/28)
5月24日	2023年世界食品安全の日に向けて「食品規格がいのちを救う」	621回

食品健康影響評価の審議状況

2023.6.30現在

区分	諮問案件						自ら評価
	要請件数 注1、2)	うち 令和5年度分	審議中 注3)	意見 募集中 注4)	評価終了 件数	うち 令和5年 度分	評価終了 注5)
添加物	314	4	11		303	1	
栄養成分添加物	2				2		
香料	7				7		
農薬	1389	5	161	1	1227	7	
うちポジティブリスト関係	544		129	1	414		
うち清涼飲料水	25				25		
うち飼料中の残留農薬基準	59		16		43		
動物用医薬品	663	1	20	2	641		
うちポジティブリスト関係	138		10	2	126		
器具・容器包装	23	2	1		22	2	
汚染物質等	68		1		67		3
うち清涼飲料水	52				52		
微生物・ウイルス	21				21		2
プリオン	74		8		66		14
かび毒・自然毒	9				9		5
遺伝子組換え食品等	376	1	14		362	3	
新開発食品	92	1	1		91		3
肥料・飼料等	325	2	28		297	6	
うちポジティブリスト関係	142		21		121	1	
薬剤耐性菌	73	1	10		63	1	1
高濃度にジアシルグリセロールを含む食品に関するWG	1				1		
食品による窒息事故に関するWG	1				1		
放射性物質の食品健康影響に関するWG	2				2		
アレルギーを含む食品に関するWG							1
その他(指定成分、アルミニウム等)	2				2		1
合計	3442	17	255	3	3184	20	30

- (注) 1 リスク管理機関から、評価要請後に取り下げ申請があった場合には、その分を要請件数から減じている。
2 評価の過程で新たに審議する必要がある案件が生じた場合には、評価終了時にその案件数を要請件数に加算している。
3 「審議中」欄には、審議継続の案件のほか、今後検討を開始するものを含む。
4 「意見募集中」欄には、意見情報の募集を締め切った後に検討中のものも含む。
5 自ら評価案件については、「評価終了」の欄では、複数省庁に答申したものの、答申が複数案件となったもの等について、その数を記入しているものもある。
6 「飼料中の残留農薬基準」欄については、ポジティブリスト制度の導入に際して、飼料中の残留基準が設定された農薬についての食品安全基本法第24条第2項に基づく意見聴取案件数である。
7 「薬剤耐性菌」欄には、肥飼料・微生物合同調査会(H18.3.6～H27.8.24)で審議したものも含む。

委員会の意見の聴取に関する案件の審議状況

(2023年6月30日現在)

参考2

I 専門調査会において検討中、または今後検討を開始するもの

接受日	要請元	食品健康影響評価の対象	
2003/12/8	農	薬剤耐性菌 飼料添加物として指定された抗菌性物質、動物用医薬品のうち、飼料添加物として指定されている抗菌性物質と同一又は同系統で薬剤耐性の交差が認められる抗菌性物質により選択される薬剤耐性菌※（水生動物に使用するスルホンアミド系合成抗菌剤、テトラサイクリン系抗生物質及びマクロライド系抗生物質。）	3
2004/10/29	農	薬剤耐性菌 チアンフェニコールを有効成分とする牛及び豚の注射剤（ネオマイゾン注射液及びバシット注射液）、アンピシリンナトリウムを有効成分とする牛の注射剤（注射用ビクシリン）	2
2005/2/14	厚	農薬 ジコホールー	1
2005/8/5	農	動物用医薬品 スルファメトキサゾール及びトリメトプリムを有効成分とする豚の飲水添加剤（動物用シノラル液）	1
2005/8/5	農	薬剤耐性菌 ホスホマイシンを有効成分とする牛の注射剤（動物用ホスミンS（静注用））	1
2005/9/13	厚	動物用医薬品 スルファメトキサゾール	1
2006/7/18	厚	動物用医薬品 スルファメトキサゾール☆	1
2006/7/18	厚	農薬 ジコホール☆	1
2006/12/19	厚	農薬 フリラゾール☆	1
2007/1/12	厚	農薬 イマゼタピルアンモニウム塩☆、ピノキサデン☆	2
2007/2/6	厚	農薬 スピロキサミン☆	1
2007/2/6	厚	動物用医薬品 アレスリン☆、クロルマジノン☆、スルフイソゾール☆	3
2007/3/6	厚	農薬 トリチコナゾール☆	1
2007/3/20	厚	動物用医薬品 スルファジメトキシ☆、スルファモメトキシ☆	2
2007/6/5	厚	農薬 メソスルフロンメチル☆、スルフェントラゾン☆	2
2007/10/2	厚	農薬 ジクロメジン〈一部☆〉	2
2007/12/18	厚	農薬 クロピラリド☆、イソキサジフェンエチル☆	2
2008/3/11	厚	農薬 酸化プロピレン☆、プロディファコウム☆	2
2008/3/25	厚	農薬 イプロバリカルブ☆、スルホスルフロン☆、ピリデート☆、フッ化スルフリル☆	4
2008/6/3	厚	動物用医薬品 トビシリン	1
2008/7/8	厚	農薬 クロキントセットメキシル☆、クロジナホッププロパルギル☆	2
2008/7/8	厚	器具・容器包装 ビスフェノールAがヒトの健康に与える影響について※	1
2008/9/5	厚	汚染物質 カドミウムー	1
2009/2/3	厚	農薬及び動物用医薬品 ホキシム☆	2
2009/2/9	厚	農薬 エチオン☆、オキシデメトンメチル☆、ジクロラン☆、ジノカップ☆、フェンプロピモルフ☆、ベナラキシル☆、ホレート☆	7
2009/3/24	厚	農薬 パラチオンメチル☆	1

I 専門調査会において検討中、または今後検討を開始するもの

接受日	要請元	食品健康影響評価の対象	
2009/3/24	厚	農薬及び動物用医薬品 ジクロルボス及びナレド☆	2
2010/2/16	厚	対象外物質 アスタキサンチン☆、β-アポ-8'-カロチン酸エチルエステル☆、β-カロテン☆、酒石酸☆、トウガラシ色素☆、乳酸☆〈農薬用途もあり〉、マリーゴールド色素☆、メナジオン☆、レチノール☆	10
2010/3/1	厚	農薬 フルロキシピル☆	1
2010/5/11	厚	農薬 クロルデン☆	1
2010/8/12	厚	農薬 ハロキシホップ☆	1
2010/9/13	厚	農薬 クロマゾン☆、トリクロピル☆	2
2010/9/27	厚	農薬 酸化フェンブタズ☆	1
2010/11/12	厚	農薬 イマザリル☆、ジフルフェンゾピル☆、ジメチピン☆、テルブホス☆、トリアスルフロン☆、パラチオン☆、ビンクロゾリン☆、モノクロトホス☆	8
2010/11/15	農	農薬 テルブホス (飼料中) ☆	1
2010/12/10	厚	農薬及び動物用医薬品 クロルフェンビンホス☆	2
2010/12/10	厚	農薬及び動物用医薬品 メトプレン☆	2
2010/12/10	農	農薬 メトプレン (飼料中) ☆	1
2011/1/24	厚	農薬 ペンコナゾール☆	1
2011/2/10	厚	農薬 エンドスルファン☆、クロリムロンエチル☆、クロルタールジメチル☆	3
2011/4/19	厚	添加物 カルミン-	1
2011/3/25	厚	農薬 エタメツルフロンメチル☆、ジスルホトン☆、プロモキシニル☆	3
2011/4/25	農	農薬 プロモキシニル (飼料中) ☆	1
2011/9/22	厚	農薬 EPTC☆、アミノピラリド☆、イオドスルフロンメチル☆、クロルスルフロン☆、シクロキシジム☆、ジフェンゾコート☆、テクナゼン☆、ニコスルフロン☆、マレイン酸ヒドラジド☆、メトスルフロンメチル☆	10
2011/10/11	厚	農薬 ジクロホップメチル☆、トリバヌロンメチル☆、ピクロラム☆、フェノキサプロップエチル☆、ブタフェナシル☆、フルオメツロン☆、アトラジン☆	7
2011/10/11	農	農薬 アトラジン (飼料中) ☆	1
2011/11/18	厚	農薬 トラルコキシジム☆、フェノキシカルブ☆、プロスルフロン☆	3
2011/12/19	厚	プリオン 牛海綿状脳症 (BSE) 対策の見直し(オランダ)	1
2012/1/23	厚	農薬及び動物用医薬品 シハロトリン☆	2
2012/1/23	農	農薬 エチオン☆〈飼〉、ホレート☆〈飼〉、シハロトリン☆〈飼〉、ジクロルボス及びナレド☆〈飼〉	4
2012/1/23	厚	動物用医薬品 スルファジミジン☆	1
2012/3/26	厚	農薬 リムスルフロン☆	1
2012/5/21	厚	農薬 4-クロルフェノキシ酢酸☆、トリデモルフ☆、フラムプロップメチル☆	3
2012/7/18	厚	農薬 テフルトリン☆	1
2012/8/21	厚	農薬 フサライド☆、フルスルファミド☆	2
2012/9/18	厚	農薬 メコプロップ☆	1

I 専門調査会において検討中、または今後検討を開始するもの

接受日	要請元	食品健康影響評価の対象	
2013/1/22	農	農薬 クロルピリホスメチル☆〈飼〉、クロルフェンビンホス☆〈飼〉、シマジン☆〈飼〉、パラチオン☆〈飼〉	4
2013/1/30	厚	農薬 クロルピリホスメチル☆、シマジン☆	2
2013/3/12	厚	農薬 アイオキシニル☆、エテホン☆、オキサミル☆、カルフェントラゾンエチル☆、クロリダゾン☆、ターバシル☆、ピリミホスメチル☆、フルシトリネート☆、ホルクロルフェニユロン☆、メタミトロン☆、メチダチオン☆、レナシル☆	12
2013/3/13	農	農薬 ピリミホスメチル (飼料中) ☆	1
2013/4/2	厚	プリオン ポーランドから輸入される牛肉及び牛の内臓について、輸入条件の設定※	1
2013/6/12	厚	農薬 アラニカルブ☆、イマザキン☆、ジウロン☆、シプロコナゾール☆、ジメトエート☆、フルキンコナゾール☆	6
2013/6/10	農	農薬 γ-BHC☆〈飼〉、ジメトエート☆〈飼〉、メチダチオン☆〈飼〉	3
2011/9/22	厚	農薬 2,4-DB☆	1
2013/8/20	厚	農薬 DBEDC■〈一部☆〉、ノニルフェノールスルホン酸銅■〈一部☆〉、イマザモックスアンモニウム塩☆、ヒメキサゾール☆、メトリブジン☆、リニユロン☆	8
2013/8/20	厚	農薬及び動物用医薬品 ジヒドロストレプトマイシン及びストレプトマイシン☆	2
2014/9/9	厚	農薬 ピラゾリネート☆	1
2015/1/8	厚	プリオン スウェーデンから輸入される牛肉及び牛の内臓※	1
2015/5/14	厚	プリオン スイス及びリヒテンシュタインから輸入される牛肉及び牛の内臓※	1
2015/9/30	厚	プリオン イタリアから輸入される牛肉及び牛の内臓※	1
2015/12/18	厚	プリオン 牛海綿状脳症 (BSE) 国内対策の見直し&※	1
2017/4/19	厚	農薬 ピレトリン☆	1
2017/8/3	厚	プリオン 英国から輸入される牛、めん羊及び山羊の肉並びに内臓※	1
2017/11/30	厚	遺伝子組換え食品等 ミラクリン発現トマトTU-IP105B-1(食品) ■	1
2017/12/20	農	遺伝子組換え食品等 ミラクリン発現トマトTU-IP105B-1(飼料) ■	1
2018/7/4	農	薬剤耐性菌 バルネムリン塩酸塩を有効成分とする豚の飼料添加剤(エコノアプレミックス1%及びエコノアプレミックス10%) ■	1
2019/2/27	農	薬剤耐性菌 アモキシシリン水和物を有効成分とする牛及び豚の注射剤(アモスタックLA注) ■	1
2019/10/24	厚	遺伝子組換え食品等 チョウ目害虫抵抗性サトウキビ CTC175-A■、CA02-1191株を利用して生産されたL-グルタミン酸ナトリウム■	2
2020/2/13	厚	動物用医薬品 ジニトルミド ☆	1
2020/3/17	厚	動物用医薬品 ジブチルサクシネート☆、スルファクロルピリダジン☆、スルファジアジン☆、スルファドキシム☆、スルファモイルダプソン☆、ノルジエストメット☆	6
2020/3/17	厚	動物用医薬品・飼料添加物 スルファキノキサリン☆	1
2020/5/13	厚	プリオン 「ドイツから輸入される牛、めん羊及び山羊の肉及び内臓」※	1
2020/9/24	厚	遺伝子組換え食品等 Raα3114株を利用して生産されたプロテアーゼ■	1
2021/5/14	農	遺伝子組換え食品等 DHA産生及び除草剤グルホシネート耐性キャノーラ (NS-B50027-4) (飼料) ■	1
2021/5/17	厚	遺伝子組換え食品等 DHA産生及び除草剤グルホシネート耐性キャノーラ (NS-B50027-4) (食品) ■	1

I 専門調査会において検討中、または今後検討を開始するもの

接受日	要請元	食品健康影響評価の対象	
2022/3/23	厚	農薬 ヨウ化メチル■	1
2022/3/16	厚	遺伝子組換え食品等 コウチュウ目害虫抵抗性及び除草剤グルホシネート耐性トウモロコシ (DP915635) (食品) ■	1
2022/3/15	農	遺伝子組換え食品等 コウチュウ目害虫抵抗性及び除草剤グルホシネート耐性トウモロコシ (DP915635) (飼料) ■	1
2022/4/21	厚	農薬及び動物用医薬品 シペルメトリン■	1
2022/6/15	農	薬剤耐性菌 アミノグリコシド系抗生物質が動物用医薬品として家畜に投与された場合に選択される薬剤耐性菌※	1
2022/7/13	厚	農薬 プロチオホス■	1
2022/8/23	厚	添加物 亜硫酸ナトリウム■、次亜硫酸ナトリウム■、二酸化硫黄■、ピロ亜硫酸カリウム■、ピロ亜硫酸ナトリウム■	5
2022/8/24	厚	農薬 イミシアホス■	1
2022/9/28	農	農薬 チオベンカルブ※、チフルザミド※、ブタクロール※	3
2022/9/27	厚	遺伝子組換え食品等 JPAo010株を利用して生産されたポリフェノールオキシダーゼ■	1
2022/12/1	厚	添加物 亜塩素酸水■	1
2022/12/7	農	動物用医薬品・薬剤耐性菌 ツラスロマイシン及びケトプロフェンを有効成分とする牛の注射剤 (ドラクシンKP) ■	3
2022/12/14	厚	農薬 チオジカルブ及びメソミル☆	1
2022/12/14	厚	農薬及び動物用医薬品 イミダクロプリド■、クロチアニジン■、ピペロニルブトキシド☆	6
2022/12/14	厚	動物用医薬品 プラレトリン■	1
2022/12/14	農	農薬 1,3-ジクロロプロペン※、アセタミプリド※、イソチアニル※、イミダクロプリド※、クロチアニジン※、ジノテフラン※、チアメトキサム※	7
2022/12/14	農	動物用医薬品 クロチアニジンとd-d-T80-プラレトリンを有効成分とする畜舎噴霧剤 (ヌーベルショット、トリプルアクセル) ■	1
2023/1/10	厚	遺伝子組換え食品等 Trichoderma reesei RF6197株を使用して生産されたペクチナーゼ■、Trichoderma reesei RF6201株を使用して生産されたペクチナーゼ■	2
2023/1/25	農	農薬 グリホサート※	1
2023/3/9	厚	農薬 発芽スイートルーピン抽出たんぱく質■	1
2023/3/9	厚	農薬及び動物用医薬品 プロフラニリド■	2
2023/3/8	厚	動物用医薬品 フェノキシエタノール■	1
2023/3/8	厚	肥料・飼料等 3-ニトロオキシプロパノール■	1
2023/3/7	農	肥料・飼料等 3-ニトロオキシプロパノール■	1
2023/3/8	農	動物用医薬品 フェノキシエタノールを有効成分とするすずき目魚類の薬浴剤 (製剤名: バイオネンネ) ■、プロフラニリドを有効成分とする鶏舎噴霧剤 (リブケアFL) ■	2
2023/3/22	農	農薬 エスプロカルブ※、フェンメディファム※、フサライド※	3
2023/3/7	農	遺伝子組換え食品等 JPAo012株から生産されたフィターゼー	1
2023/3/29	消	新開発食品 健康茶 血糖値対策500※■	1
2023/5/24	厚	農薬 イソピラザム■、プロシミドン■、フロニカミド■、ポリオキシシンD亜鉛塩■	4
2023/5/24	厚	農薬及び動物用医薬品 フェニトロチオン■	2

I 専門調査会において検討中、または今後検討を開始するもの

接受日	要請元	食品健康影響評価の対象	
2023/5/22	厚	遺伝子組換え食品等 JPAo011株を利用して生産されたホスホリパーゼ	1
2023/5/30	厚	添加物 メチルセルロース■、カルボキシメチルセルロースカルシウムー、カルボキシメチルセルロースナトリウムー、デンプングリコール酸ナトリウムー	4
2023/6/27	農	ムラミダーゼー	1
-	-	有機フッ素化合物 (PFAS) ◎	1

256

(注)

ーは、食品安全基本法第24条第1項案件である（企業申請を含まない）。

☆印は、ポジティブリスト制度に伴う食品安全基本法第24条第2項に基づく意見聴取案件である。

※印は、食品安全基本法第24条第3項に基づく意見聴取案件である。

■印は、食品安全基本法第24条第1項案件かつ企業申請案件である（平成22年1月1日以降委員会において説明したもののみ）。

◎印は、食品安全基本法第23条第1項第2号による自ら評価である。

Ⅱ 専門調査会における審議結果（案）について意見募集を行っているもの

募集期間	対象となる審議結果（案）	
2023/5/17～2023/6/15	農薬及び動物用医薬品 エマメクチン安息香酸塩☆☆	2
2022/10/26～2022/11/24	動物用医薬品 ヒドロコルチゾン☆☆	1

3

（注）

★印の案件については、意見募集は終了している。

ーは、食品安全基本法第24条第1項案件である（企業申請を含まない）。

☆印は、ポジティブリスト制度に伴う食品安全基本法第24条第2項に基づく意見聴取案件である。

※印は、食品安全基本法第24条第3項に基づく意見聴取案件である。

■印は、食品安全基本法第24条第1項案件かつ企業申請案件である（平成22年1月1日以降委員会において説明したもののみ）。

◎印は、食品安全基本法第23条第1項第2号による自ら評価である。

Ⅲ 食品安全委員会において既に食品健康影響評価を終了したもの

通知日	通知先	食品健康影響評価の対象	
2023/4/12	厚	動物用医薬品・飼料添加物 エトパベート☆	1
2023/4/12	厚	遺伝子組換え食品等 DIDK-0176株を利用して生産されたホスホリパーゼ■、ROM株を利用して生産されたα-アミラーゼ■	2
2023/4/12	厚	農薬 ジクロロメゾチアズ■	1
2023/5/9	厚	農薬 1,4-ジメチルナフタレン■、ジメスルファゼット■	2
2023/5/17	農	動物用医薬品 マルボフロキサシンを有効成分とする牛の注射剤（フォーシル）■	1
2023/5/17	厚	農薬 1-メチルシクロプロペン■、クロルフルアズロン■、テブフェンピラド■	3
2023/5/19	農	肥料・飼料等 普通肥料公定規格改正_菌体りん酸肥料-	1
2023/5/31	厚	農薬及び飼料添加物 シンナムアルデヒド（ケイ皮アルデヒド）■	2
2023/5/31	厚	遺伝子組換え食品等 Geobacillus stearothermophilus TP7株を使用して生産されたプロテアーゼ■	1
2023/5/31	厚	動物用医薬品及び薬剤耐性菌 マルボフロキサシンを有効成分とする牛及び豚の注射剤（マルボシル2%、10%）■	2
2023/6/7	厚	添加物 ポリビニルアルコール■	1
2023/6/7	厚	器具・容器包装 食品衛生法第18条第1項の規定に基づき、食品、添加物等の規格基準（昭和34年厚生省告示第370号）に定める器具及び容器包装の規格を改正することについて-	1
2023/6/7	厚	器具・容器包装 食品衛生法第52条第1項の規定に基づき、器具又は容器包装を製造する営業の施設の衛生的な管理その他公衆衛生上必要な措置に関する基準を改正することについて-	1
2023/6/8	農	肥料・飼料等 遺伝子組換え技術によって得られたKomagataella phaffii を利用して生産されたフィターゼ■	1

(注)

一は、食品安全基本法第24条第1項案件である（企業申請を含まない）。

☆印は、ポジティブリスト制度に伴う食品安全基本法第24条第2項に基づく意見聴取案件である。

※印は、食品安全基本法第24条第3項に基づく意見聴取案件である。

■印は、食品安全基本法第24条第1項案件かつ企業申請案件である（平成22年1月1日以降委員会において説明したもののみ）。

◎印は、食品安全基本法第23条第1項第2号による自ら評価である。

IV その他

通知日	通知先	件名
2004/1/30	厚・農・環	遺伝子組換え食品（種子植物）の安全性評価基準 遺伝子組換え植物の掛け合わせについての安全性評価の考え方
2004/3/18	農	普通肥料の公定規格に関する食品健康影響評価の考え方
2004/3/25	厚・農・環	遺伝子組換え微生物を利用して製造された添加物の安全性評価基準
2004/5/6	厚・農・環	遺伝子組換え飼料及び飼料添加物の安全性評価の考え方
2004/8/5	厚・農	特定保健用食品の安全性評価に関する基本的考え方
2004/9/30	農	家畜等への抗菌性物質の使用により選択される薬剤耐性菌の食品健康影響に関する評価指針
2005/4/28	厚・農・環	遺伝子組換え微生物を利用して製造された添加物のうち、アミノ酸等の最終産物が高度に精製された非タンパク質性添加物の安全性評価の考え方
2006/6/29	厚・農	暫定基準が設定された農薬等の食品健康影響評価の実施手順
2007/9/13	厚・農	食品により媒介される微生物に関する食品健康影響評価指針（暫定版）
2008/6/26	厚・農・環	遺伝子組換え食品（微生物）の安全性評価基準
2010/5/27	厚	添加物に関する食品健康影響評価指針
2016/5/17	厚	香料に関する食品健康影響評価指針
2017/7/18	厚	添加物に関する食品健康影響評価指針（改正） 栄養成分関連添加物に関する食品健康影響評価指針 添加物（酵素）に関する食品健康影響評価指針
2018/4/10	厚・農	動物用医薬品に関する食品健康影響評価指針
2018/9/25	厚・農	飼料添加物に関する食品健康影響評価指針 動物用医薬品に関する食品健康影響評価指針（改訂）
2019/5/28	厚	食品用器具及び容器包装に関する食品健康影響評価指針
2019/10/1	厚・農	残留農薬に関する食品健康影響評価指針
2019/10/29	厚・農	食品健康影響評価におけるベンチマークドーズ法の活用に関する指針
2019/11/13	厚・農	遺伝子組換え植物の掛け合わせについての安全性評価の考え方
2020/3/24	厚・農	食品安全委員会専門調査会等運営規定 改正
2020/6/16	厚・農	残留農薬の食品健康影響評価におけるコリンエステラーゼ阻害作用を有する農薬の取扱いについて
2020/7/7	厚・農	暫定基準が設定された動物用医薬品及び飼料添加物に係る食品健康影響評価の考え方について
2020/10/6	厚	食品用器具及び容器包装に関する食品健康影響評価指針（改訂）
2021/4/6	厚・農	残留農薬に関する食品健康影響評価指針（改訂）
2021/5/18	厚・農	飼料添加物に関する食品健康影響評価指針
2021/9/29	厚	添加物に関する食品健康影響評価指針（改正） 香料に関する食品健康影響評価指針（改正） 添加物（酵素）に関する食品健康影響評価指針（改正） 栄養成分関連添加物に関する食品健康影響評価指針（改正）
2022/3/22	農	家畜等への抗菌性物質の使用により選択される薬剤耐性菌の食品健康影響に関する評価指針の一部改正 食品を介してヒトの健康に影響を及ぼす細菌に対する抗菌性物質の重要度のランク付けについての一部改正
2022/6/21	厚・農	食品により媒介される微生物等に関する食品健康影響評価指針（改正）